

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第41週の発生動向

全数報告の感染症 (41週までに新たに届出のあったもの)

1類感染症：報告なし。2類感染症：結核3例。3類感染症：報告なし。
4類感染症：報告なし。5類感染症：劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	30歳代	男	肺結核	咳、痰
			30歳代	女	無症状病原体保有者	—
			80歳代	男	結核性胸膜炎	呼吸困難
5類	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	宮崎市	80歳代	男	—	ショック、腎不全、DIC 血清群：B群

定点把握の対象となる5類感染症

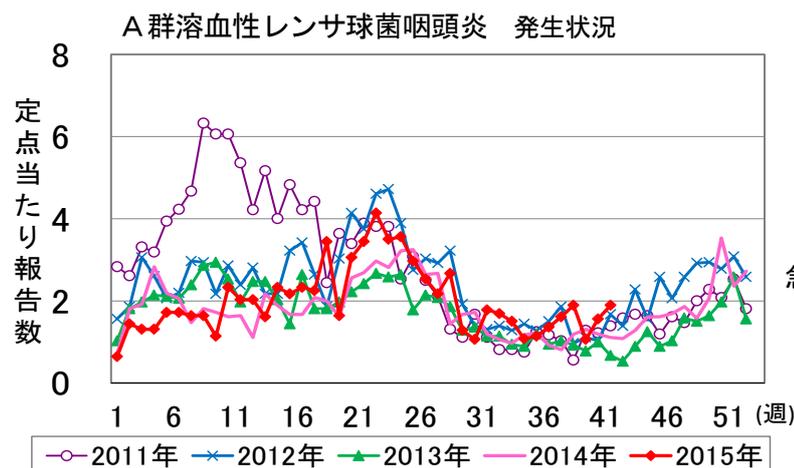
・定点医療機関からの報告総数は786人(定点当たり28.4)で、前週比110%と増加した。前週に比べ増加した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎と感染性胃腸炎で、減少した主な疾患は水痘とヘルパンギーナであった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

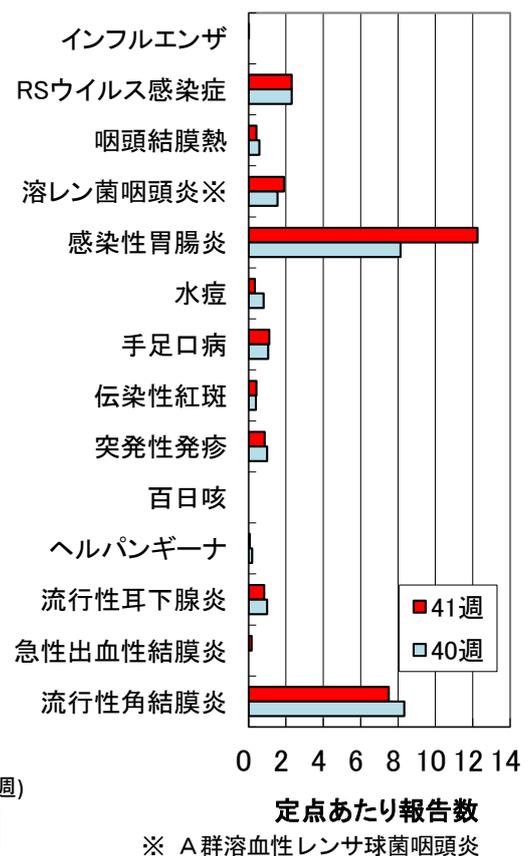
【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

・報告数は68人(1.9)で、前週比121%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(1.1)の約1.7倍であった。年齢別では6~7歳が全体の約4割を占めた。

*過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値。



《前週との比較》

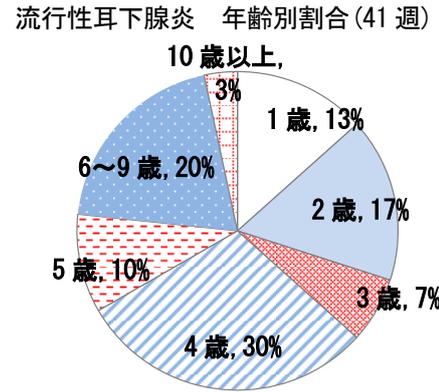
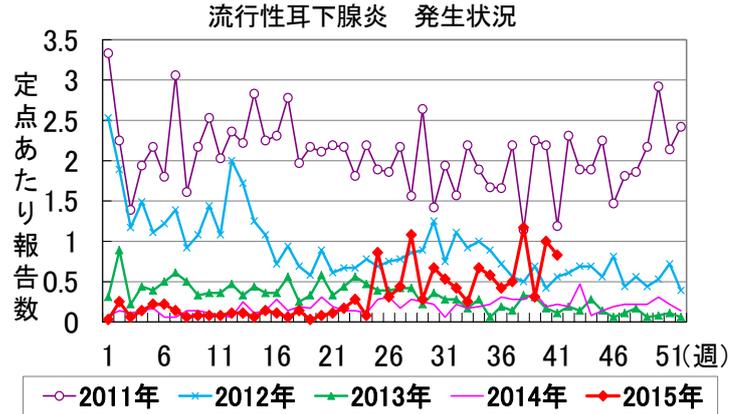
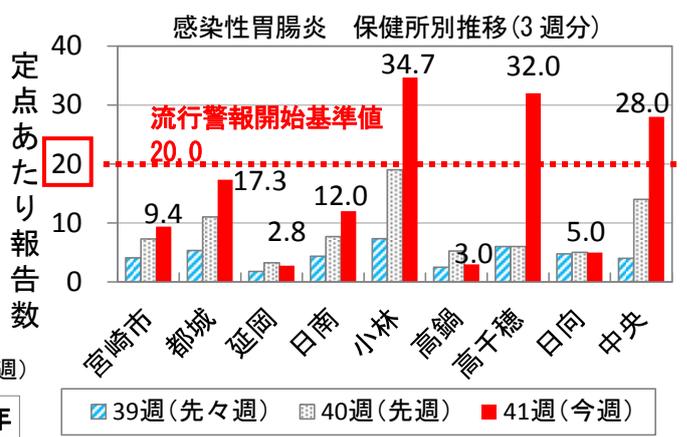
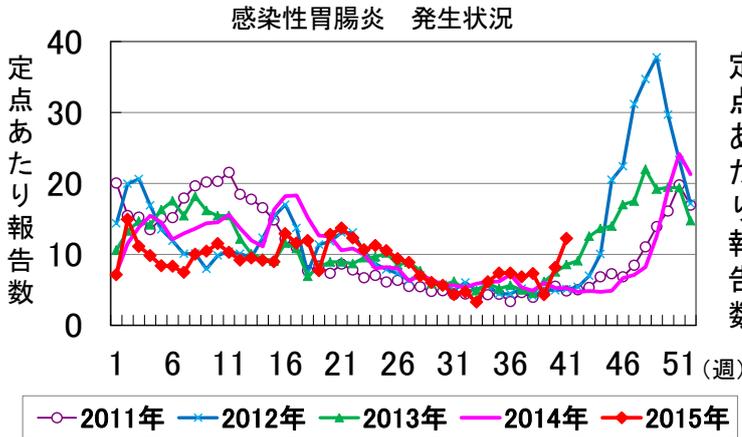


【感染性胃腸炎】

・報告数は441人(12.3)で、前週比151%と大幅に増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(5.8)の約2.1倍と多い。小林(34.7)、高千穂(32.0)、中央(28.0)保健所からの報告が多く、年齢別では6カ月~4歳が全体の約6割を占めた。

【流行性耳下腺炎】

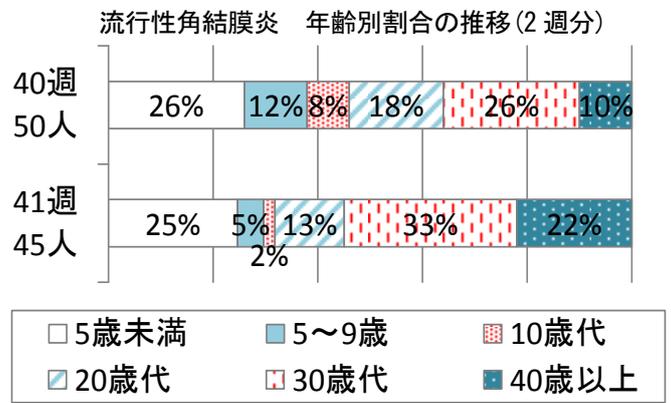
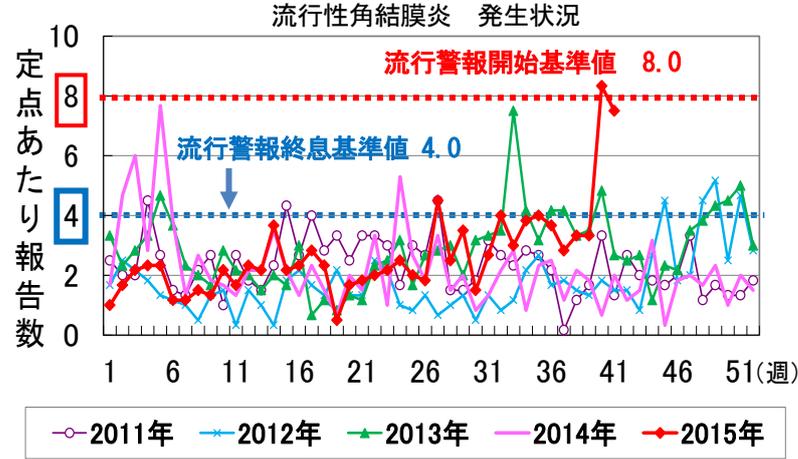
・報告数は30人(0.83)で、前週比83%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(1.0)の約0.8倍であった。小林(7.3)保健所からの報告が多く、年齢別では4歳が全体の3割を占めた。



★眼科定点からの報告★

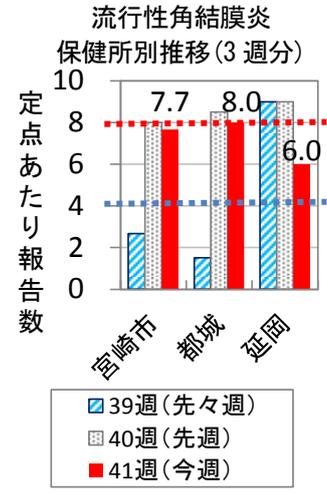
【流行性角結膜炎】

・報告数は45人(7.5)で、前週比90%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(2.3)の約3.2倍であった。保健所別報告数の推移及び年齢別割合の推移は下図参照。



★基幹定点からの報告★

- 感染性胃腸炎(ロタウイルス)：高鍋保健所管内で1例報告があった。0歳で、便からロタウイルス群別不明が検出された。
- マイコプラズマ肺炎：日向保健所管内で1例報告があった。1~4歳で、咽頭ぬぐい液から検出された。



★流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	なし
都城	流行性角結膜炎(8.0)
延岡	なし
日南	なし
小林	感染性胃腸炎(34.7)、流行性耳下腺炎(7.3)
高鍋	なし
高千穂	感染性胃腸炎(32.0)
日向	なし
中央	感染性胃腸炎(28.0)

* 流行警報レベル開始基準値 *

- ・感染性胃腸炎(20.0)
- ・流行性耳下腺炎(6.0)
- ・流行性角結膜炎(8.0)

📊 全国第 40 週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第 40 週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	413 例				
3類感染症	細菌性赤痢	3 例	腸管出血性大腸菌感染症	74 例	腸チフス	2 例
4類感染症	E 型肝炎	1 例	A 型肝炎	7 例	重症熱性血小板減少症候群	1 例
	デング熱	11 例	日本紅斑熱	6 例	マラリア	1 例
	レジオネラ症	33 例	レプトスピラ症	3 例		
5類感染症	アメーバ赤痢	7 例	ウイルス性肝炎	4 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	23 例
	急性脳炎	8 例	クリプトスポリジウム症	1 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5 例	後天性免疫不全症候群	16 例	ジアルジア症	2 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2 例	侵襲性肺炎球菌感染症	24 例	水痘（入院例）	1 例
	梅毒	35 例	播種性クリプトコックス症	1 例	破傷風	3 例
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 例	風しん	3 例	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1 例

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 132%と増加した（前週祝日含む）。前週と比較して増加した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎と伝染性紅斑で、減少した主な疾患はインフルエンザであった。

R Sウイルス感染症の報告数は2,643人(0.84)で前週比131%と増加した。山形県(2.5)、徳島県(2.4)、宮崎県(2.3)からの報告が多く、年齢別では6ヵ月～1歳が全体の約6割を占めた。

流行性角結膜炎の報告数は749人(1.1)で前週比130%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.57)の約1.9倍と多い。宮崎県(8.3)、熊本県(7.6)からの報告が多く、年齢別では30歳代が全体の約3割、1～5歳が約2割を占めた。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2015年 第41週(10月5日～10月11日)

疾病名		第40週	第41週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数		1		1							
	定点あたり	0.00	0.02	0.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	83	83	14	13	10	7	3	8		28	
	定点あたり	2.31	2.31	1.40	2.17	2.50	2.33	1.00	2.00	0.00	7.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	21	15	3	3		1		1		7	
	定点あたり	0.58	0.42	0.30	0.50	0.00	0.33	0.00	0.25	0.00	1.75	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	56	68	13	6	9	15	4	3		16	2
	定点あたり	1.56	1.89	1.30	1.00	2.25	5.00	1.33	0.75	0.00	4.00	2.00
感染性胃腸炎	報告数	293	441	94	104	11	36	104	12	32	20	28
	定点あたり	8.14	12.25	9.40	17.33	2.75	12.00	34.67	3.00	32.00	5.00	28.00
水痘	報告数	29	12	6		4					2	
	定点あたり	0.81	0.33	0.60	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00
手足口病	報告数	38	40	16	1	4	1	7	3		8	
	定点あたり	1.06	1.11	1.60	0.17	1.00	0.33	2.33	0.75	0.00	2.00	0.00
伝染性紅斑	報告数	14	15	7	3		4	1				
	定点あたり	0.39	0.42	0.70	0.50	0.00	1.33	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	36	31	10	6	6	3	2	2		2	
	定点あたり	1.00	0.86	1.00	1.00	1.50	1.00	0.67	0.50	0.00	0.50	0.00
百日咳	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	7	2			1			1			
	定点あたり	0.19	0.06	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	36	30		2	3		22			3	
	定点あたり	1.00	0.83	0.00	0.33	0.75	0.00	7.33	0.00	0.00	0.75	0.00
急性出血性結膜炎	報告数		1	1								
	定点あたり	0.00	0.17	0.33	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	50	45	23	16	6						
	定点あたり	8.33	7.50	7.67	8.00	6.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数	3	1								1	
	定点あたり	0.43	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		1.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数		1						1			
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2015年第1週～41週)

2類感染症	結核	165例(3)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	100例				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	2例	重症熱性血小板減少症候群	6例
	つつが虫病	3例	デング熱	1例	日本紅斑熱	7例
	マラリア	1例	レジオネラ症	4例	レプトスピラ症	1例
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	5例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	4例
	急性脳炎	4例	クロイツフェルト・ヤコブ病	3例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4例(1)
	後天性免疫不全症候群	14例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	5例
	水痘(入院例)	2例	梅毒	4例	播種性クリプトコックス症	2例
	破傷風	7例				

()内は今週届出分、再掲

📊 月報告対象疾患の発生動向 <2015年9月>

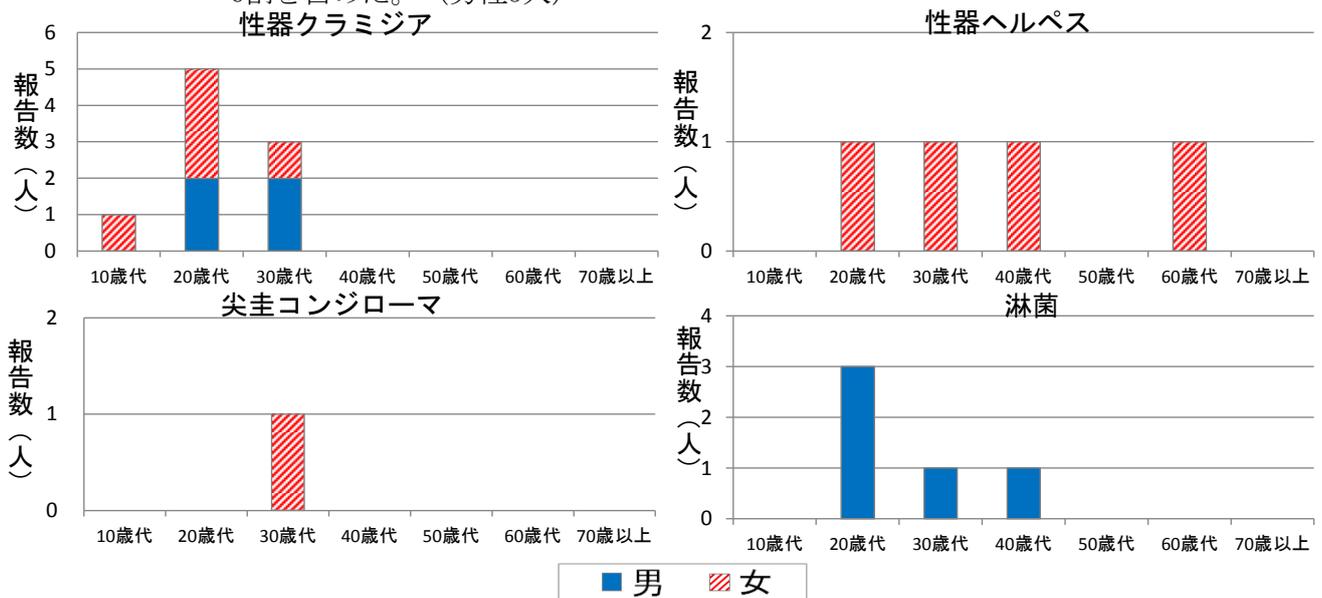
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は19人(1.5)で、前月比51%と減少した。また、昨年9月(3.2)の約0.5倍であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数9人(0.69)で、前月及び昨年9月の約0.3倍であった。20歳代が全体の約6割を占めた。(男性4人・女性5人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数4人(0.31)で、前月の2.0倍、昨年9月の約1.3倍であった。(女性4人)
- 尖圭コンジローマ：報告数1人(0.08)で、前月の約0.3倍、昨年9月と同じであった。(女性1人)
- 淋菌感染症：報告数5人(0.38)で、前月の約0.8倍、昨年9月の0.6倍であった。20歳代が全体の6割を占めた。(男性5人)



【全国】 定点医療機関総数：975

定点医療機関からの報告総数は3,971人(4.1)で、前月比100%と横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症1,984人(2.0)で前月比97%、性器ヘルペスウイルス感染症752人(0.77)で前月106%、尖圭コンジローマ484人(0.50)で前月比104%、淋菌感染症751人(0.77)で前月比99%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は19人(2.7)で前月比91%と減少した。また昨年9月(3.0)の約0.9倍であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数19人(2.7)で、前月及び昨年9月の約0.9倍であった。70歳以上が全体の約7割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告はなかった。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告はなかった。

【全国】 定点医療機関総数：472

定点医療機関からの報告総数は1,561人(3.3)で、前月比97%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,410人(3.0)で前月比97%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症126人(0.27)で前月比100%、薬剤耐性緑膿菌感染症25人(0.05)で前月比100%であった。